

令和6年度 研究リーフレット

子どもが夢中になって遊ぶ保育を目指して

～ 次の保育につながる 環境の再構成 ～



令和7年2月
鳥取大学
附属幼稚園

はじめに

幼児期に「夢中になって遊ぶ」ことは、人間の発達の基礎を形づくるとも大切なことだと考えます。一人ひとりの子どもがもてる個性や伸びていこうとする力を最大限に引き出す環境を構成し保育を行っています。

憧れのおねえさん、おにいさんのようにやってみたくて初めての遊びに何度も挑戦する3歳児。「いっしょに遊ぼう」と子ども同士で誘い合い、楽しいイメージを伝え合って、遊びの輪を広げていく4歳児。みんなで知恵を出し合い、力を合わせるからこそできるダイナミックな遊びを、何日もかけてイメージを豊かに練り上げ、創りあげていく5歳児。遊びは、伝え合い、教え合いによって学年を超えて広がっていきます。そして、それぞれの年齢らしい精一杯の力を出して遊びきった子どもたちの表情には、いきいきとした満足感、充実感があふれています。

本園では、考案した「フォトエピソード記録」という方法を活用し、全教職員で全園児の理解に努め、発達を援助することに日々取り組んで参りました。私たちが探究してきた保育の研究成果を、このリーフレットにまとめました。お読みくださった皆さまにとって、明日からの保育の一助となりましたら幸いです。

園長 寺川 志奈子

本園の保育について

本園は、幼児期の子どもにとって「遊びは学びである」という考えの基に、子どもが自ら遊びを見つけ、試行錯誤し、主体的・協同的に遊びを深める中で様々な経験を中心を据えて保育を行っています。人やモノ、コトとの関わりをもちながら、様々な心が動く体験を通して遊びは充実していき、好奇心や探究心、気付き、工夫などをはじめ多くの学びが生まれると考えています。



令和6年度 研究テーマ

子どもが夢中になって遊ぶ保育を目指して

～ 次の保育につながる 環境の再構成 ～

今年度の取組

令和4年度から、「子どもが夢中になって遊ぶ保育」を目指して、研究に取り組んできた。昨年度は、「友だちと関わり 遊びを深める」ということに重点を置き、遊びを深めていくための保育者の援助について模索していった。成果も多かったが、遊びの途中で援助に悩んだとき等に他の保育者の考えを聞き、もっと保育を充実させたいという思いが出てきた。このようなことから、今年度は「次の保育につながる 環境の再構成」ということに重点を置き、さらに子どもが夢中になって遊ぶ姿を目指していった。カンファレンスの内容を踏まえて「環境の再構成」を行うことで保育者の援助を充実させて次の保育につなげ、遊びがさらに発展するようにした。「環境」とは、安心安全に遊ぶ場の環境を整えることを前提として、遊具や保育室等の物的環境・保育者や友だち等の人的環境など様々に考えられる。(図1)

保育のねらいや内容を踏まえつつ、子どもの姿をとらえ、環境を柔軟に再構成していき、その結果も含めてフォトエピソード記録としてまとめ、考察していった。そして、保育者の援助の視野がより広がることを目指した。

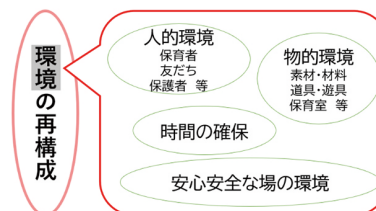


図1

研究の目的

保育者同士のカンファレンスをもとに、環境の再構成をして保育を実践することで、より子どもが夢中になって遊ぶ保育を探る。



研究の方法

- 遊びの中で課題を感じた場面の事例を持ち寄り、保育者の保育の意図や援助、環境の再構成について話し合う。(フォトトーク)
- 子どもの思考の流れを大切にして、長期間の記録と評価を作成し、保育者で内容を共有する。(フォトエピソード記録)
- 保育者の自己研鑽のためにも、担任交換を行い、実施後は、意見交換等で客観的に保育を振り返る。(先生となかよしデー)
- 評価を持ち寄り、反映しながら教育課程を検討する。(月の指導計画の改訂)

研究の実際

フォトトーク・フォトエピソード記録・評価表

フォトエピソード記録とは、遊びが深まった場面での子どもの思考の流れを、友だちとのつながりや保育者の援助とともに時間の経過が分かるように記録したものである。保育者同士のフォトトークの中で、カンファレンスを行い、様々な考えを出し合った。そして、次の保育につながるように環境の再構成を考えていった。これらの内容をまとめていったものが「カンファレンス及び環境の再構成」のページである。(図2)

また、環境の再構成をした後のフォトエピソード記録や評価表も作成し、保育の充実を図った。本園の考える評価は、保育者の保育を振り返り、改善するための自己評価である。そして次の実践へとつなげていくためのものである。評価の視点や保育者の思いや援助、よかった点や改善点、次年度への引継ぎや指導計画への反映についてまとめていった。今年度は、再構成の前後で分けて記録できるように、形式の検討もした。

フォトトークの流れ

①フォトエピソード記録の概要を説明する。

②写真の説明、相談したいことを話す。

③カンファレンスをする。

・「相談に対してのアイデアやアドバイス」、「環境の再構成の具体案」について話し合う。

・話し合いを中心に、必要に応じて付箋等を使う。

・要点を記録する。

④どのように環境の再構成をしていくか話す。

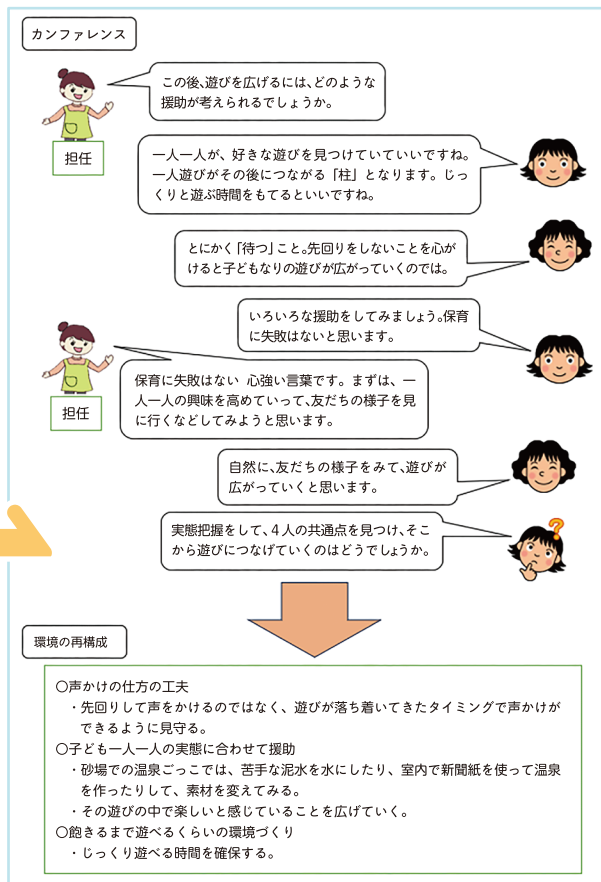


図2

→ 次ページから、4歳児(にじ組)2学期のフォトエピソード記録及び評価表を掲載する。

フォトエピソード記録

そらさんみたいに やってみたい

4歳児 9月~12月

主な遊びの流れ

2学期になり運動会練習が始まると、5歳児クラス(そらの組)の「組体操」「バレー」「リレー」などを自然と集まって見たり応援したりする様子が見られた。運動会を終えると、さらに5歳児のやっていたことを真似る姿が多く見られた。また、5歳児が開いた「ピザ屋さん」の中の販売機に着目し作ってみたり、「ハロウィンパーティー」に参加後自分たちのコンサートを大々的に行ったりすることもあった。これらの遊びの中で、もともと4歳児が好きな遊びである衣装を着て何かになりきること、レストラン屋さんやおばけ屋敷に友だちを呼び込むことを楽しんで実践した。そこには、5歳児のやっていたことの影響、憧れが随所に見られた。

<9月中旬>

子どもの姿

年長児(5歳児)の姿に関心をもち、憧れの視線を向ける。
【健康な心と体】



子どもの思い・願い
運動会
そらさん! カッコいい

そらさんカッコいい
わたしもしたいな

保育者の援助

子どもたちに寄り添い、共感する姿勢でいる。

<9月下旬~10月>

自分たちがやりたいことを友だちと一緒にやってみる。
【健康な心と体】



そらさんみたいに
やってみよう

やっている姿を応援したり、入ることに躊躇している友だちを誘ったりして、保育者も一緒になって遊ぶ。



ピザ屋さんの販売機 作りたい



年長児の姿に関心をもち、やってみようと思う。
【健康な心と体】



いらっしゃいませ!

＜10月下旬～11月上旬＞

そらのお店屋さんハロウィーンパーティー楽しかったね 自分たちもコンサートをやってみよう

そらさんの
ハロウィーンパーティー
楽しかったね



楽しいな
うれしいな

来てくれて
ありがとう!!

自分なりのイメージを基に
友だちと話しながら準備
し、歌ったり踊ったりする。
【健康な心と体、言葉による
伝え合い、豊かな感性と
表現】



遊びに必要な楽器や積み木
などの物がすぐに使えるよ
うにしておく。子どもたち
が準備し片付けられるよう
にする。



にじの組の遊び いろいろやってみよう

おもしろそうだね。
やってみよう。

レストラン屋さん



おばけ屋敷



観察

普段から年長児に憧れを抱いていたが、運動会を経験することで「そらさんがすることをしてみたい」と憧れや関心が強くなった。運動会の演目は、年長児が教えたり、一緒にしたりすることでますます楽しんだ。園だけでなく、家庭でも組体操などを見せる様子も聞かれた。「ピザ屋さん」「ハロウィーンパーティー」など年長児が招待してくれた遊びからも影響を受け、自分たちの遊びに生かす姿が見られた。今までしていた自分たちの好きな遊びにおいても、年長児に影響され、展開していった。年少児を呼んでお店をしたりコンサートをしたりしていたところへ、年長児も来たことをとても喜んでた。年少児がお店を開いた時には、年中児が「行かなきゃ」と友だちを誘って急いで行く姿も見られた。日頃から異年齢で関わり合っているからこそ、年長児の姿を自分たちの遊びに反映することができているのだと考える。

カンファレンス



担任

今後、どんな遊びへ、どうつなげるか、広げていか考え中です。
「発表会でたくさんの人に、自分たちの楽しんでいる遊びを見て
もらいたい。」という子どもたちの思いにつなげていきたいと思っ
ています。

発表の仕方や内容を工夫し、子どもたちの考えや
アイデアを引き出すようにするといいですね。

自分たちの好きな遊びをおうちの人や年長児、年
少児に紹介してみるとよいかもかもしれませんね。今
までも年長、年少児に見てもらおう機会をもってい
るので、その経験を生かしたらどうですか。

子どもたちが自分自身で話し合っ、工夫し、考
えて、楽しみたいですね。最後は「よかったね」「ま
たやりたいね」となるようにしたいですね。

発表会へ気持ちが向きにくい子、イメージをもち
にくい子への援助も大切ですね。好きなことを取
り入れ、昨年のことを思い出させたり、写真など
視覚的に示したりするのもいいのではないでしょ
うか。

一人一人の興味あることから広げたり、紙芝居のようなものでイ
メージをもたせたりしたいです。また衣装や小道具などで子どもの
気持ちを高め、イメージをもちやすくなるようにしたいです。

環境の再構成

- 子どもの思いを生かした遊びになるように
 - ・子どもの好きな遊び、保護者に見てもらいたい遊びを自分たちで決める。
 - ・小道具や衣装、使いたい物を考え、友だちや保育者と一緒に製作し準備する。
- 発表会が子ども自身のものになるように
 - ・発表への意欲を高め、イメージをもてるようにするため、紙芝居（ロールシアター）やビデオ、プロジェクターで視覚的な援助をする。
 - ・ステージでやる回数や時間を調整し、「まだやりたい」「もっとしたい」と思えるようにすることで意欲を継続し、高める。
- 教職員の連携で
 - ・子どもの思いを共有し、同じ方向性で援助していく。
 - ・個々の子どもへの理解の共有化を図る。

＜10月下旬～12月上旬＞

発表会前から発表会

好きな遊び
頑張っている遊び見てもらおう

発表する遊びを決めたあと

はじめは次に
その次は

みんなで準備！

やる内容を楽し
みながら確認す
る。
【健康な心と体、
自立心】



自分なりのイメージでやり
たいことを表現する。
【健康な心と体、自立心・
協同性・豊かな感性と表現】

発表会 劇ごっこ

見てー！

見通しが立つように
図や絵で示したり、
自分の姿を確認でき
るようにビデオや写
真を見たりする。子
どもたちと一緒に道
具や衣装など準備を
し、気持ちを高める。

おもしろかった



発表会后

これから始めます

子どもたちのつぶやきに耳を傾け、子
どもの思いを大切に、やりたいと
思った遊びがすぐできるようにする。

そらさんがやっていたハンドベルコンサート



考察

カンファレンス後、子どもたちが「好きだ」「やりたい」「見せたい」と思う遊びを発表しあう場を設けた。その遊びをステージで表現するにはどうしたらいいか子どもたちと一緒に考え、子どもが主体となって遊べるように意識した。子どもたちの遊びのイメージが具体化できるよう衣装や小道具を保育者と一緒に作るようにした。そして、ステージでの劇遊びの時間はなるべく短時間になるようにし、意欲が続くようにしていった。子どもたちの感想からも楽しい発表になったようだった。

今後、憧れの存在としての年長児の姿や子どもたちのもっている経験やイメージから、子どもたちが「やりたい」と思ったことを、すぐ表現できる環境を用意し、子どもの思うその時を大切にしていきたい。

評価表

【評価】 そらさんみたいに やってみたい（4歳児9月～12月）

評価の視点（健康な心と体） ◎子どもの姿 ☆援助と環境構成		・子どもの姿や思い、保育者の読み取り ○保育者の思いと援助 ◎援助に応じた子どもの姿	○よかった点 ●改善点
◎年長児のやっていることに憧れ、関心もち、同じようにやってみようとする。 ◎衣装や道具を活用して遊びをより楽しそうにする。	再構成前	・やりたい遊びを友だちや保育者に伝え、みんなで楽しもうとする。 ○子どもたちがほしい道具などを準備したり作ったりして、遊びのイメージが実現できるようにした。 ◎友だちと一緒に道具など準備することで、もっと楽しそうと自分たちでさらに工夫しようとする姿が増えた。準備や遊びでも自分たちで役割を分担して楽しんだ。	○年長児の姿があり、遊びのモデルとしてイメージしやすく、楽しく真似したり、遊びを広げたりすることができた。 ●子どもの好きなこと苦手なことがあるので、それぞれのやり方で参加できるように援助していく。
☆子どものやりたいという気持ちを大切に、自分で選んだり考えたりする場や機会をもつ。 ☆遊びのイメージを共有し、遊びの道具を準備したり、一緒に遊んだりする。	再構成後	・自分や友だちの好きな遊びをうちの人の見てもらう発表会を楽しみにする。 ○ステージで発表する遊びをみんなで決め、自分たちで「やるんだ」「やりたい」という気持ちを高められるようにした。 ◎自分たちが決めたやりたい遊びの発表なので、それぞれ気持ちの折り合いをつけたり、よりよくしようと工夫したりして、挑戦し楽しむ姿が見られた。 ・自分のしたい遊びのイメージをもち、そのために必要な道具や衣装について考え、準備しようとする。 ・ステージ発表に不安をもつ子どももいる。 ○道具や衣装の準備と一緒に、やる気を高めた。ステージでの発表に不安を感じている子どもには好きな持ち物などを身に着けることでやってみようと思えるように寄り添う。 ◎自分の選んだ遊びではなく、友だちのしたい遊びの場面でも小道具を持つことにより、気持ちの折り合いをつけみんなとステージ発表を楽しむことができた。	○発表会では自分たちのしたい役になったり、得意な技を見せたりでき、それぞれ思い思いにそったステージ発表をすることができた。発表会で使用する小道具や衣装は、普段の遊びに取り入れて楽しむ姿があった。 ○見てもらうということを意識し、衣装や道具、演じる内容など自分のイメージに近づくように考えたり試したりする姿が見られた。また、友だちや保育者と関わり一緒に行うことで、うれしそうな姿を見せ、発表することを楽しみにする発言が聞かれた。 ●もっと「遊びの延長線上の発表会」となるように保育を充実させていきたい。
・引き継ぎ、指導計画への反映		・発表会で頑張っている様子や挑戦していることなどを共有するなど、家庭との連携を図る。	

ミニフォトトーク

遊びの中で課題を感じた場面の事例を持ち寄り、保育者の保育の意図や援助、環境の再構成について話し合うフォトトークに取り組み、各発達段階で大切にしたい経験や遊び方について共通理解していった。また、なるべく保育者みんなで話し合うために、非常勤職員がより参加しやすいよう、15 分間程度のミニフォトトークも設定し、次の日からの保育につなげた。

先生となかよしデー(担任交換)

年間4回、保育者の自己研鑽のためにも、登園から降園まで担任交換をした。保育者が主体的に異年齢の遊びを深く知ること、子どもの思いや発達を踏まえ夢中になって遊ぶ保育につながった。

実施後は、意見交換等で客観的に保育を振り返った。「子どもの実態把握や園児理解が深まる」「保育者同士で気付いたことを伝え合うことで保育について共通理解できる」「保育者自身のスキルアップにつながる」などの意見があった。子どもや保護者からも、「いろんな先生に関わってもらえてうれしい」という好意的な感想が聞かれた。

保護者向け掲示物の作成

子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を保護者の方に伝えるために、子どもたちの遊びの様子をまとめた保護者向け掲示物を園児玄関に作成した。各月のねらいや、異年齢との関わりも掲示することで、本園の保育や研究についての理解につなげたいと考えて取り組んだ。



月の指導計画の改訂

令和4年度から取り組んできた、月の指導計画の改訂は、3年計画の3年目であった。評価表の「引き継ぎ・教育課程への反映」の項目の内容を取り入れたり、「育てたい力」、「大切にしたい心の動き」、「期の指導計画」などの今までの研究の積み重ねを参考にしたりしてまとめていった。

大切にしたい心の動き・ねらい、内容を一番左上にもってきて見やすくした。保育資料例として、その月に合った歌や手遊びの例を載せたり、家庭との連携について、年齢や月の行事に関わる内容を記したりした。(図3) また、保育のねらいをそれぞれに記し、「各年齢でなるべく経験できるようにしたい内容」に下線を引いたり「保育者の援助のポイント」に網掛けをしたりして、より活用しやすいものになるようにした。(図4)

保育資料例	家庭との連携
保育資料例(歌・手遊び・絵本・集団遊び・製作等) 歌 : こいのぼり、ぶんぶんぶん、バスに乗って、風船の歌、どんな色が好き、おつかいありさん、雨ふりくまのこ、かたつむり 手遊び : キャベツのなかから、おべんとうばこの歌、やさいの歌、ビクニック、むすんでひらいて、りんごころころ、グーチョキパーで、カレライスの歌 絵本・紙芝居 : ワニぼうのこいのぼり、14 ひきのびくにく、えんそくバス、なにをたべてきたの、にじいろのしまうま、あおむしだれのこ(紙芝居) 集団遊び : バスごっこ、色さがしゲーム、動物まねっこ、おさんぽぞうさん、こんなことができますか 製作 : かぶと(新聞紙)、持ち歩けるこいのぼり(折り紙)、梅雨に関する製作物(カエル、雨、カタツムリ等)	家庭との連携 ・4月からの学級での様子や成長した内容などを保護者に伝え、連絡を密にして、安心感につながるようにする。 ・着替えの補充・交換や、園児自身での衣服の着脱等についての協力をお願いする。 ・初めての防災訓練なので、子どもの様子を保護者から聞き取り、援助や対応について相談しておく。(音に対して敏感、不安や緊張感が高いなど)

図3

●生き物や草花にふれ、春の自然に親しむ。(環・健)	各年齢でなるべく経験できるようにしたい内容
・園庭や松林の草花を見たり、摘んだりする。 ・パンジーやクローバーなどの草花を摘み、ポウルの水に浮かべたり、ビニル袋の水に入れてもんだりして遊ぶ。 ・空き容器やビニル袋に移し替えて持ち帰ろうとする。 ・アリやダンゴムシなどの虫を見つめたり、触ったりする。 ・園外保育で動物公園に行き、小動物にえさをあげたりふれあったりして遊ぶ。 ・友だちや保育者の持っているもの、していることに興味をもち、自分もしてみようとする。 ♪花を触るのは気持ちいいな ♪いっぱい集めたいな ♪気持ちいいな ♪水に浮かべるのおもしろい ♪きれいだな ♪持って帰りたいな ♪ほくも、わたしもしたいな ♪ほしいな ♪動物さん、怖いな ♪かわいいな ◎春の心地よい自然にふれられるように、子どもたちを戸外に誘う。◎草花がある場所に行き、一緒に摘んだり保育室に飾ったりし、草花に親しみをもつことができるようにする。 ◎ビニル袋や空き容器を準備しておき、必要に応じて持ち帰りができるようにする。 ◎見つけた虫を見ることができるコーナーを作り、絵や図鑑のコピーしたものなどを掲示する。 ◎保育者も一緒に小動物や虫にふれ、生き物に興味をもったり親しみを感じたりできるようにする。 [園庭、菜山、松林、草花、樹木、ビニル袋、空き容器、ポウル、生き物、動物公園、水、図鑑、本]	援助のポイント

図4

まとめ

今年度は、特に「次の保育につながる 環境の再構成」をテーマに研究に取り組んできました。

5歳児は、年度当初、遊び始めてもすぐに他の遊びに気が向いて、なかなか遊びが続かないという実態がありました。しかし、子どもたちの思いや願いから次につなげていく保育を意識した今年度の研究の取組を経て、製作のピザづくりから始まった、「ピザ屋さんごっこ」は、2か月以上つながる遊びとなりました。そして、5歳児だけでなく、4歳児や3歳児も含めた全園児の遊びに発展していき、各クラスでの遊びにも広がっていきました。この遊びの中で、自主性や社会性、創造性といった附属幼稚園が目指す子どもの姿が見られました。そして、遊びきることで達成感や満足感を得て、成長していく様子も感じました。

保育者にとって、フォトトークやフォトエピソード記録に継続して取り組むことで、保育の現状を見つめ直す機会となりました。保育者同士で悩みを相談しカンファレンスを行うことで、新たな気付きや学びが生まれ日々の保育の充実につながっています。また、評価表についても、「環境の再構成」に重点を置き、再構成前と再構成後に分けて書く形式に改訂しました。そうすることで、今まで以上に保育の振り返りをしやすくなりました。

今後は、10の姿の視点と同様に、5領域の視点をもっと意識して、目指す子ども像やねらいを明確にし、取り組んでいきたいと考えています。そして、フォトトークやフォトエピソード記録の取組や環境の再構成についての研究を重ねていくことで子どもたちの姿にさらなる成果が現れてくると考えます。

子どもたちにとって、遊びは学びそのものです。これからも子どもたちが豊かな経験を積み重ねる保育を実践し、夢中になって遊ぶ子どもの姿を目指していきたいと考えています。



おわりに

今年度は研究の3年次を迎え、これまで園で取り組んできたエピソード記録やフォトトークの内容を改善しながら、次の保育につながる環境の再構成について取り組んできました。日頃から、職員間で子どもたちの育ちや学びを気軽に話ができる関係を構築しています。特に、フォトトークでは多様な意見が聞かれ、熱のこもった話し合いとなります。このような機会は、自らの見方・考え方の幅を広げ、より多くの保育の可能性を見出し、教職員の保育の質を高めていく1つになっています。実際の保育の中で、子どもたちはもっと遊びたい、もっと試したいと遊びが続き、この遊びをクラスの友だちだけではなく、異年齢の友だちも誘いたい、参加してもらいたいという思いにつながっていきました。今では、年長が年中・年少を誘うだけでなく、ときには年中が年長・年少を誘ったり、またあるときは一番下の年少が年長・年中を誘ったりと、異年齢交流は日々行き来する関係になってきています。1学期には1度しか実施できなかったフォトトークでしたが、ミニフォトトークとして1クラスずつ日にちを分け、短時間で実施することで、今では持続可能な研修となりました。

今後も、教職員の同僚性をさらに高め、子どもたちの心が動く遊びが繰り広げられ、明日も園に行きたいと思える保育に取り組んでいきたいと思います。ご一読いただき、忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

副園長 谷口 千春





令和 7 年 2 月発行

〈発行者〉

国立大学法人 鳥取大学附属幼稚園

〒680-0941 鳥取県鳥取市湖山町北 2 丁目 465 番地

TEL : 0857(28)0010 / FAX : 0857(31)3321

Email : fuyou@fuzoku.tottori-u.ac.jp

HP : www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/youchien

